

改善報告書

令和7年7月18日

1. 大学名：大阪樟蔭女子大学

2. 認証評価実施年度：令和4年度

3. 「改善を要する点」の内容

基準項目：2-1

○学芸学部国文学科の収容定員充足率が0.7倍未満なので、改善が必要である。

4. 改善状況及び結果

基準項目2-1について

令和4年度に指摘のあった学芸学部国文学科における収容定員未充足については、定員確保に向けた取組みを行ってきたが、18歳人口の減少や進学傾向の多様化など取巻く環境は年々厳しさを増し、入学定員の未充足が続いていた。そのため、国文学科のみならず、他学科も含めて全学的に定員確保に向けた方策に取り組むとともに、新学科設置に伴う適正な定員数の検討を重ね、令和6年3月4日に開催された理事会において、令和7年度から大学全体で660名の収容定員を500名に減じることを決定した。うち、国文学科は入学定員を60名から40名に減じ、収容定員を160名とすることとした。【資料2-1-1】

令和7年度の入学者は、令和6年度より微増したものの減じた入学定員を満たすまでは至っていない。しかし、継続的な入学者の確保と現状の更なる改善のため、建学の精神である「高い知性と豊かな情操を兼ね備えた社会に貢献できる女性の育成」を実践している大学であることを、オープンキャンパス、進学相談会や高校訪問の広報活動で継続して伝えてきた。特に近年はSNSを活用しながら、教員の教育力や少人数教育の強みの発信を行うことで、国文学科での学びの魅力アピールを強化した結果、令和7年度の入学定員変更後の入学定員充足率は93%となった。これは令和6年度の入学定員充足率53%より改善傾向が見られており、今後、年次進行により収容定員充足率も改善することが見込まれる。引き続き、定員を充足できるよう、教育課程の質を維持しながら、現実的な運営体制を整え、継続的な定員規模を含めた点検と改善を重ねる。

5. エビデンス（根拠資料）一覧

基準項目2-1の資料

・【資料2-1-1】2023年度 第12回理事会議事録